

派遣先所属 福島県教育庁文化財課（南相馬市駐在）
氏 名 堀口 智彦（ほりぐち ともしこ）
派遣期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の文化財課（南相馬市駐在）で、主に復興事業に伴う埋蔵文化財の調査業務を行っています。震災から6年以上が経過し、生活の中で震災の傷跡を目にすることはほとんどありません。しかし、津波により大きな被害を受けた沿岸部だけでなく、内陸部においても住民が避難したことによって空き家や放棄された耕地が目立つ地域があり、復興ははまだ道半ばと感じます。

このような状況の中、復旧・復興のために多くの事業が実施されています。主なものとして、防潮堤の建設や海岸防災林の造成、国道や県道の整備、農地の区画や排水路の再整備（ほ場整備）などがあります。また、これらの工事の際に必要な土砂を確保するため、各地の山で土砂採取が盛んに行われています。

これらの事業を行う場所に、埋蔵文化財包蔵地、いわゆる遺跡が所在する場合、その取扱いを決定するため事前の調査が必要になります。復旧・復興事業については特別な取扱い基準を設けて対応していますが、対象となる事業量が多いことから迅速な対応が困難な状況が続いています。そのため、これまでに全国各地の文化財専門職員が岩手県、宮城県、福島県に派遣されており、埼玉県から福島県への派遣は平成27年度に続いて2回目になります。

文化財課（南相馬市駐在）は、特に被害が大きい沿岸部（浜通り）の調査を担当しており、福島県職員3名、福島県文化振興財団から出向の専門職員が1名、他県市からの派遣職員6名の体制です。担当している調査には、①分布調査、②試掘・確認調査があります。分布調査は、事業予定地を実際に歩きまわり、既知の遺跡の所在や土器が落ちているなど未知の遺跡の可能性がある場所がないかを確認するものです。これにより事業予定地内で試掘・確認調査が必要な範囲を判断することになるため、すべての業務の基礎になる重要な調査です。

試掘・確認調査は、分布調査で試掘が必要と判断した範囲にどのような遺跡がどのくらいの規模で存在しているかを確認するものです。実際に地面を掘削して調査を行います。が、範囲全体を掘削するのではなく「トレンチ」と呼ぶ幅2m程度の溝を重機で数か所～数十か所掘って、その中で遺構（生活の痕跡）や遺物（使った道具）を見つけ、記録を作成します。



試掘・確認調査の様子（土の黒い部分が遺構）

事業を実施する建設事務所や農林事務所などは、文化財の取扱いについて綿密に協議を行っています。調査の記録は報告書にまとめて提出し、試掘・確認調査の結果埋蔵文化財が見つかった場合は、調査で得たデータをもとに文化財の現状保存が可能な工法で工事を進められないかを検討します。したがって、全面的な発掘調査（本発掘）は、工事により文化財が壊れることがどうしても避けられない場合、必要最低限の範囲で実施することになります。

派遣前から事業量が多いと聞いていましたが、実際に対応していると件数もさることながら事業対象地の面積の広大さに圧倒されます。そのため、調査の精度を維持しつつ迅速に実施することが最も重要になっています。文化財の保護と事業の円滑な実施の両立のため日々確実に調査を進めています。

2 被災地の復旧・復興の状況

相馬市原町区にある宿舎の向かいには幼稚園があり、先日は運動会が開催されていて賑やかな声が聞こえてきました。7月末に行われた相馬野馬追の際の街の様子を見ても、復興が着実に前進していることを実感しています。

しかし、南隣にある南相馬市小高区では住宅の解体が各所で進んでおり、市街地に空き地が目立ちます。浪江町、富岡町、飯館村など避難指示が解除されてから日が浅い地域では、商店など生活に不可欠な施設が不足していることもあって、余り住民が戻ってきていないようで、復興の度合いには地域差が見られます。その背景には放射線量の不安もあり、影響が根強く残っていることを感じます。そのような中でも、人が集まる拠点になるような新しい道の駅ができるなど良い兆しも見られます。



3 被災地へ派遣となって感じたこと

福島県は全国で3番目の面積の広大な県ということもあり、浜通り、中通り、会津の3地方それぞれに独自の魅力があります。それは文化財に関しても同様で、各地域の歴史を知る上で重要な遺跡を見る機会に恵まれました。復興事業のための調査であるという大前提はありますが、調査を手伝ってくださる方、あるいは周辺に住む方が自分たちの住む地域の歴史を考えるきっかけにもなればと思いながら日々の調査を行っています。

各地で開催されている復興関係調査成果の展示を見ると、震災という負の出来事から生まれた調査成果ではありますが、それを地域の歴史を考える機会へ繋げようとする試みが伝わってきます。このようなこともあり、今回の派遣は福島県のためだけでなく、埼玉県に戻っても還元できるような貴重な経験が多いと感じています。